



産総研特別顧問の石原舜三氏がハドン・フォレスター・キングメダルを受賞

森下祐一（産総研 地質情報研究部門）

石原舜三産業技術総合研究所特別顧問がオーストラリア科学アカデミーのハドン・フォレスター・キングメダル (Haddon Forrester King Medal) を2012年10月19日に受賞しました(写真1)。受賞は石原特別顧問が提唱した磁鉄鉱系およびチタン鉄鉱系花崗岩類の鉱床探査実用面での有効性に対してです。本賞は地球科学、特に鉱物資源の評価と探査に関して独創的な研究を長年にわたり継続して行った研究者を対象に、オーストラリア科学アカデミーから2年に一度、原則1名に対して贈られるもので、1993年の創設以来日本人としては初めての受賞となります。

石原特別顧問は1956年に通商産業省工業技術院地質調査所に入所され、鉱床部核原料資源課でウラン資源探査プロジェクトを担当されました。鉱床部鉱床研究課長を経て1985年に鉱床部長に任ぜられ、その後東北工業技術研究所長に転出した後、1989年に地質調査所長に就任されました。1991年には地質調査所から初めて工業技術院長に抜擢されました。1993年には北海道大学教授に転じられ、定年退官の後には工業技術院特別顧問を経て産業技術総合研究所の特別顧問として現在も精力的に研究を継続されています。

石原特別顧問は中国地方の鉱床と花崗岩類の関係から磁鉄鉱系とチタン鉄鉱系に花崗岩類を分類する着想を得ました。帯磁率計を持ち多くの花崗岩類を巡って日本列島を飛び回り、その分類法を確立した後、この世界的に有名な研究成果を世界中の花崗岩類に適用して普遍的な科学の確立に成功しました。磁鉄鉱系列とチタン鉄鉱系列は花崗岩質マグマの酸化/還元状態を反映していると考えられましたが、帯磁率計で簡単に測定できるために多くの研究者がこのスキームでの議論を行うようになりました。石原特別顧問は常に議論の中心にあり、オーストラリアで提唱されたIタイプ/Sタイプ花崗岩類との対応関係など、数多くの研究論文として後世に残される事となりました。

今回の受賞式はキャンベラのオーストラリア科学アカデミーのホールにおいて行われ、「磁鉄鉱系及びチタン鉄鉱系花崗岩類の発見とその今日的な意義」と題する講演を行うとともに、メダル(写真2)を授与されました。



写真1 オーストラリア科学アカデミー会長の Prof. Suzanne Cory からメダルを受け取る石原特別顧問。



写真2 オーストラリア造幣局が製造した銀製のハドン・フォレスター・キングメダル。

【スケジュール】

1月8日～3月31日	地質標本館特別展「地質情報展2012おおさか再展示」(地質標本館, つくば市)
3月24日～26日	第5回日本地学オリンピック本選(つくば市)
3月26日～28日	INTERNATIONAL PETROLEUM TECHNOLOGY CONFERENCE (China, Beijing)
3月28日～30日	資源・素材学会平成25年度春季大会(千葉工業大学津田沼キャンパス, 習志野市)
3月29日～31日	日本地理学会2013年春季学術大会(立正大学熊谷キャンパス, 熊谷市)
4月7日～12日	ヨーロッパ地球科学連合大会2013(Austria, Vienna)
4月15日～21日	平成25年度(第54回)科学技術週間
4月16日～19日	23rd International Mining Congress and Exhibition of Turkey (Turkey, Antalya)
4月16日～5月31日	春の特別展第3回火山巡回展「霧島火山」(地質標本館, つくば市)

◆ 編集後記 ◆

大きな被害をもたらした東北地方太平洋沖地震から2年が経ちました。その地震で被害を受けた共同利用実験室の再構築についての小笠原さんの解説から始まる今月号の特集は、産総研地質分野が共同で管理する分析機器と関連機器に関する解説です。最先端の研究を支える分析・測定環境がどのように整備されて維持されているか、またそれがどのように活用できるかがそれぞれの記事からわかります。奥山さんの誕生石の連載、3月はアクアマリンです。地質標本館にも美しいアクアマリンが展示されていますので、ぜひ一度ご覧になってください。(3月号編集担当: 渡辺真人)